

# 学生のアクティビティ

## いずみナーサリー保育ボランティア

人間文化創成科学研究科 人間発達科学専攻 保育・教育支援コースM1 山下紗織

ボランティアとして初めていずみナーサリーを訪れた日のことを、私はとてもよく覚えています。お昼寝から起き出してきた1歳になったばかりの小さな女の子が、画用紙で制作している私を見つめ、少ししてから、にっこり笑いってくれました。その時からもう1年半以上経ちますが、子どもたちの笑顔が、今でも何よりの喜びと励みになっているように思います。

大学附属の保育施設である「いずみナーサリー」には、0歳から2歳までの子どもたちがいます。私は今、大学院で保育や幼児教育を学んでいます。それと並行する形で、週1日、ボランティアとしてさまざまな経験をしています。まずは、私がナーサリーでどのようなことをお手伝いしているのか紹介させていただきたいと思います。

午前は、子どもたちはお散歩に出かけます。私も両手に小さくあたたかい手をにぎり、いつもよりもゆっくりとしたペースで歩きます。ゆっくり歩いていると、普段見えないものがよく見えてきます。地面をせっせと歩く蟻や、ひらひら舞う蝶々、それから岩の下でもそもそも動く団子虫。思わずふーっと吹き飛ばしたくなるタンポポの綿毛や、ころころ転がっているドングリの実、がさがさ音を立てる落ち葉や、ふさふさしてくすぐったいハルジオン。子どもたちは、ひとつひとつのものをじっと見つめ、触れながら、何かを感じて歩いているようです。私はそんな子どもたちにたくさんの発見をさせてもらひながら、歩き続けます。危険な場所や子どもたちの動きに気を配りながら、共に歩き外で遊ぶことで、自分自身も開放的になり、充実した時間を過ごすことができます。

お散歩から帰ってきて子どもたちが午睡に入ると、室内の壁画やおもちゃ、お誕生日カードなどの制作をします。保育士さんのアドバイスをうかがい、どんな絵にしたら子どもたちが喜ぶかな、どんな遊びが発展するかな、そんなことを考えながら、制作をします。お部屋に自分の作った絵やおもちゃが並び、それを見たり使ったりして遊ぶ子どもたちの姿を見ると、何ともいえない、幸せな気持ちになります。子どもたちが楽しく安全にのびのび遊べるような環境作りのために、少しでもお手伝いできたらと思っています。

お昼寝から起きておやつを食べた後、子どもたちはお部屋の中で自由に遊びます。お迎えまでのこの時間、遊びに夢中になり、何かに真剣に取り組んでいる子どもたちの姿に出会い、いつも驚かされます。ちょっと見ただけでは何をしているのかわからなくとも、よく見てみると、子どもたちはとてもおもしろいことをしていることに気付きます。そのおもしろさ、興味深さ、不思議さは、どうしてもうまく表現できそうにありません。毎回帰った後には一日を振り返のですが、その日の出来事や感じたことがぐるぐると頭の中を廻ります。それを記録として、



ナーサリーにメールで報告します。保育士さんは毎回とても丁寧に返信をくださり、とても勉強になります。そうして考えたことがまた、翌週につながっていきます。

ボランティア活動について簡単に紹介させていただきましたが、ナーサリーでボランティアをしていて良かったと思うのは、学ぶのに最高の環境だということです。ボランティアを始めた学部時代、私は日本文学を学んでいました。保育士資格も幼稚園免許も持っておらず、まったくと言って良いほど保育のことがわからない私に、ナーサリーの保育士さんたちはとても丁寧にアドバイスをくださいました。今でも、気付いたことがあればその場ですぐに声をかけてくださったり、メールでお話しくださったりします。保育士さんのお話をうかがい、自分の思ったことを聞いていただくことで、新たな視点を持って子どもたちに接することができます。

また、ナーサリーの保育士さんたちはだけでなく、大学の先生方も、たいへん親身に相談にのってくださいます。勉強会を設けてくださる先生もいらっしゃるので、大学の授業の中での勉強と、ナーサリーという実践の場での勉強と、両方をバランス良く学べます。ほんとうに恵まれた環境の中で勉強させてもらっていると、日々実感しています。

ボランティアを通して学んだことは、ここには書ききれないほどたくさんあります。うまくことばに表わすこともできそうにありません。子どもたちと接していると、わからないことばかりで、毎日疑問点が増え続けていきます。その不思議に思う気持ちを大切にしながら、子どもたちをよく見てその気持ちに思いを馳せ、自分自身のことを見つめ直していくことが大切なかなと、今は考えているところです。子どもたちには教えてもらうことがたくさんあります。共に成長していくように、日々努力したいと思っています。

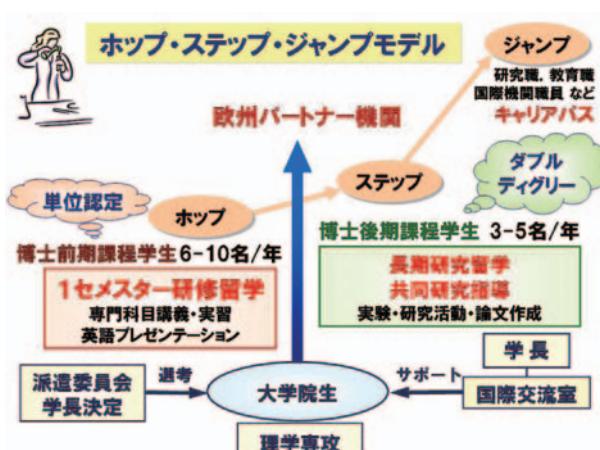
最後になりますが、私が今こうして大学院で子どものことについて学んでいられるのも、学んでいて楽しい、もっともっと学びたい、自分の進むべき道はこれかもしれないと思ったのも、ナーサリーでボランティアをしていましたからこそです。これから日々、ナーサリーで子どもたちと共に過ごすことのできる貴重な時間を大切にして、共に歩みながら、ゆっくりと学び続けていきたいと思っています。

## 校風をつなぐ女性科学者の育成

### —第2のマリー・キュリーをめざせ—

(日本学術振興会 若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム (若手ITP)

日本学術振興会の平成20年度の事業（若手ITP）に本学が提案したプログラム「校風をつなぐ女性科学者の育成」が採択されました。このプログラムでは、女性人材育成の土壤のある欧州研究機関に大学院生（理学専攻）を派遣します。3つの段階を経て社会に羽ばたく「ホップ・ステップ・ジャンプモデル」を構築し、国際的視野をもつ女性研究者を育成すると同時に、人材育成モデルとして学内外に発信していきます。平成20年度には、1セメスターの研修留学に9名を、研究留学に2名を選考しました。6月～8月上旬の語学研修および異文化理解・危機管理研修、9月の英語プレゼンテーション研修など、秋からの留学に備えて、留学準備支援も充実しています。



# 学生のアクティビティ